



2026年3月期 中間期 決算説明会資料

2025年11月12日
ホシデン株式会社

2025年度 業績概況

・ 中間期実績：増収増益

売上高	前年同期 1,162億円	▶	当期実績 2,454億円	差異 +1,293億円 (+111.3%)	アミューズメント +1,358億円 移動体通信 △63億円 輸送機器 +4億円 その他 △6億円
営業利益	前年同期 79.7億円	▶	当期実績 81.0億円	差異 +1.3億円 (+1.6%)	売上高は2倍以上に増加したものの、期中での急激な円高による営業利益の押下げにより前年同期比1.6%増となった。 (為替の影響：前年同期+12億円 当期 △26億円) *為替の影響は当社試算
為替レート	152.61円/USD		146.04円/USD		



・ 通期業績予想：上方修正

売上高	Q1公表時 4,280億円	▶	今回 4,400億円	差異 +120億円 (+2.8%)	アミューズメント +201億円 移動体通信 △61億円 輸送機器 △7億円 その他 △13億円
営業利益	Q1公表時 155億円	▶	今回 160億円	差異 +5億円 (+3.2%)	売上高の増加による営業利益の増加。
為替レート	145円/USD		150円/USD		

2025年度 営業利益にかかる為替影響額

	売上高	営業利益(A) (利益率%)	為替影響(B) * (当社試算)	実力値(A-B) (利益率%)
25年 中間期	2,454億円	81億円 (3.3%)	-26億円	107億円 (4.4%)
24年 中間期	1,162億円	80億円 (6.9%)	+12億円	68億円 (5.9%)

*実力値の営業利益率の低下はプロダクトミックスによるものです。

Agenda

第1章

1部 2025年度 上期 業績概要

2部 2025年度 業績予想

3部 トピックス

第2章

1部 代表取締役社長
古橋健士からのメッセージ

2部 主なQ&A



第1章

- 1部 2025年度 上期 業績概要
- 2部 2025年度 通期 業績予想
- 3部 トピックス

第2章

- 1部 代表取締役社長
古橋健士からのメッセージ
- 2部 主なQ&A

2025年度 上期 実績

	2024年度 上期		2025年度				前年同期比	
	(百万円)	(%)	Q1 (百万円)	Q2 (百万円)	上期 (百万円)	(%)	(百万円)	(%)
売上高	116,173	-	116,340	129,086	245,426	-	+129,253	+111.3
営業利益	7,969	6.9	2,391	5,707	8,098	3.3	+129	+1.6
経常利益	6,340	5.5	1,956	7,632	9,588	3.9	+3,248	+51.2
当期純利益	4,426	3.8	1,313	4,795	6,108	2.5	+1,682	+38.0

2025年度 上期 実績

売上高
2,454億円

前年同期比 : +1,293億円 (+111.3%)

→アミューズメント+1,358億円、移動体通信△63億円、
輸送機器+4億円、その他△6億円

営業利益
81億円

前年同期比 : +1.3億円 (+1.6%)

→売上高は2倍以上に増加したものの、期中での急激な円高による営業利益の押下げにより前年同期比1.6%増となった。

(為替の影響：前年同期+12億円、当期△26億円)

*為替の影響は当社試算

経常利益
96億円

前年同期比 : +32.5億円 (+51.2%)

→営業外為替差益9億円

2025年度 上期 実績：使用機器別売上高

	2024年度 上期		2025年度				前年同期比	
	(百万円)	(%)	Q1実績 (百万円)	Q2実績 (百万円)	上期実績 (百万円)	(%)	(百万円)	(%)
アミューズ	61,395	52.8	91,586	105,576	197,162	80.3	+135,767	+221.1
移動体通信	30,316	26.1	12,719	11,266	23,985	9.8	▲6,331	▲20.9
輸送機器	15,167	13.1	7,166	8,423	15,589	6.4	+422	+2.8
その他	9,296	8.0	4,869	3,821	8,690	3.5	▲606	▲6.5
合計	116,174	100.0	116,340	129,086	245,426	100.0	+129,252	+111.3

2025年度 上期 実績：使用機器別売上高

アミューズメント
1,972億円

前年同期比 : +1,358億円 (+221.1%)

→主要顧客の新製品の販売が好調

移動体通信
240億円

前年同期比 : ▲63億円 (▲20.9%)

→主要顧客向けの販売が前年度Q1で非常に好調であったことが影響

輸送機器
156億円

前年同期比 : +4.2億円 (+2.8%)

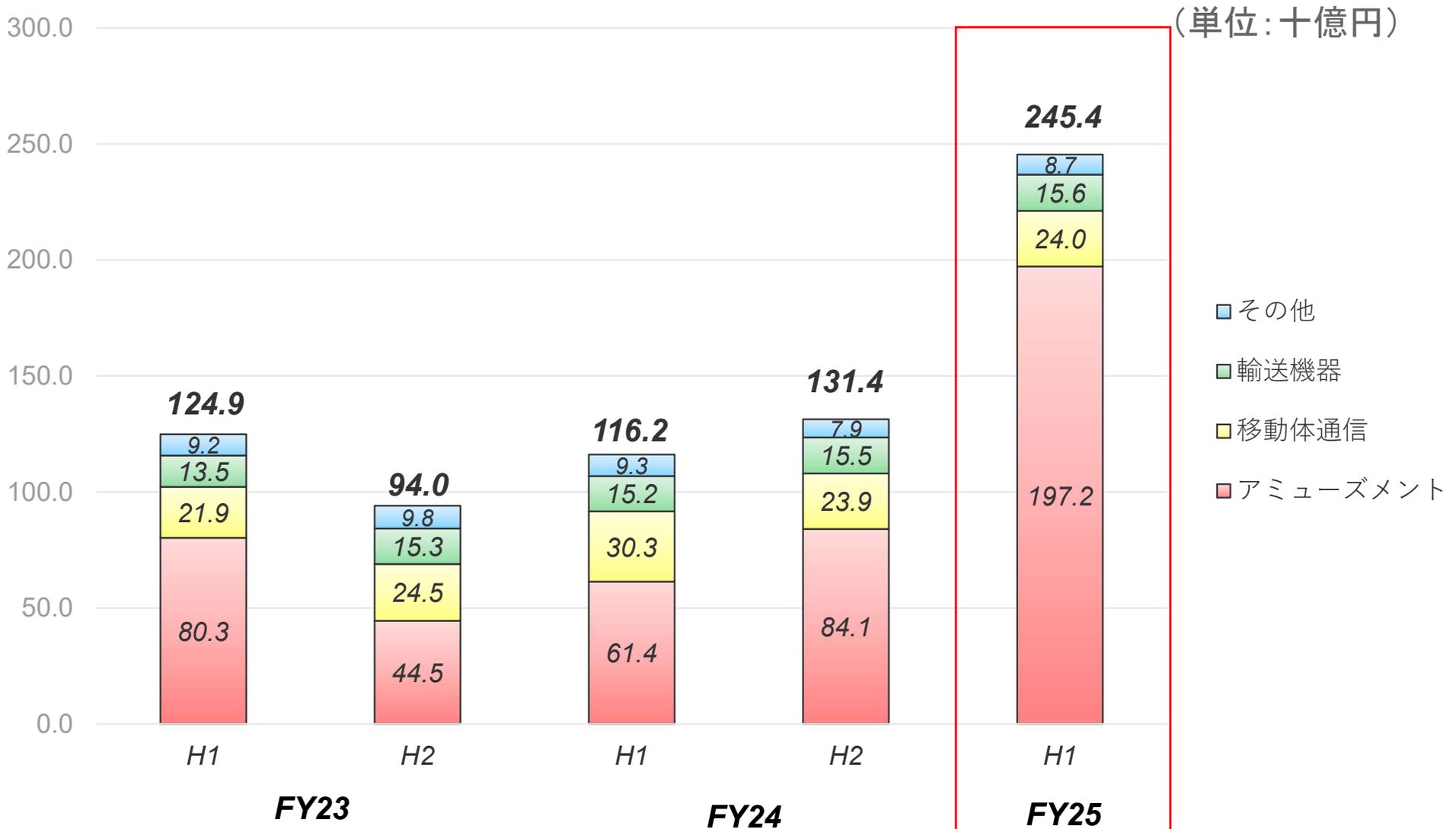
→機構部品の販売増加による

その他
87億円

前年同期比 : ▲6.1億円 (▲6.5%)

→ウェアラブル向けの増加があったものの、医療、健康関連向け及びAV機器関連向けの減少による

2025年度 上期 実績：使用機器別売上高



第1章

1部 2025年度 上期 業績概要

2部 **2025年度 業績予想**

3部 トピックス

第2章

1部 代表取締役社長
古橋健士からのメッセージ

2部 主なQ&A

2025年度 業績予想

	2024年度 実績 (百万円) 利益率(%)		2025年度				増減	
			上期実績 (百万円)	下期予想 (百万円)	通期予想 (百万円) 利益率(%)		(百万円)	前年比(%)
売上高	247,571	-	245,426	194,574	440,000	-	+192,429	+77.7
営業利益	13,573	5.5	8,098	7,902	16,000	3.6	+2,427	+17.9
経常利益	14,776	6.0	9,588	8,412	18,000	4.1	+3,224	+21.8
当期純利益	10,037	4.1	6,108	5,892	12,000	2.7	+1,963	+19.6

2025年度 業績予想

売上
4,400億円

- ・次ページ以降の通期予想：使用機器別売上高参照。

営業利益
160億円

- ・上期の為替による営業利益押し下げ効果約26億円。
下期は想定レート150円のため、為替の影響は発生しない見込み。
- ・米国の関税政策による関税負担の増加は通期で約8~10億円。

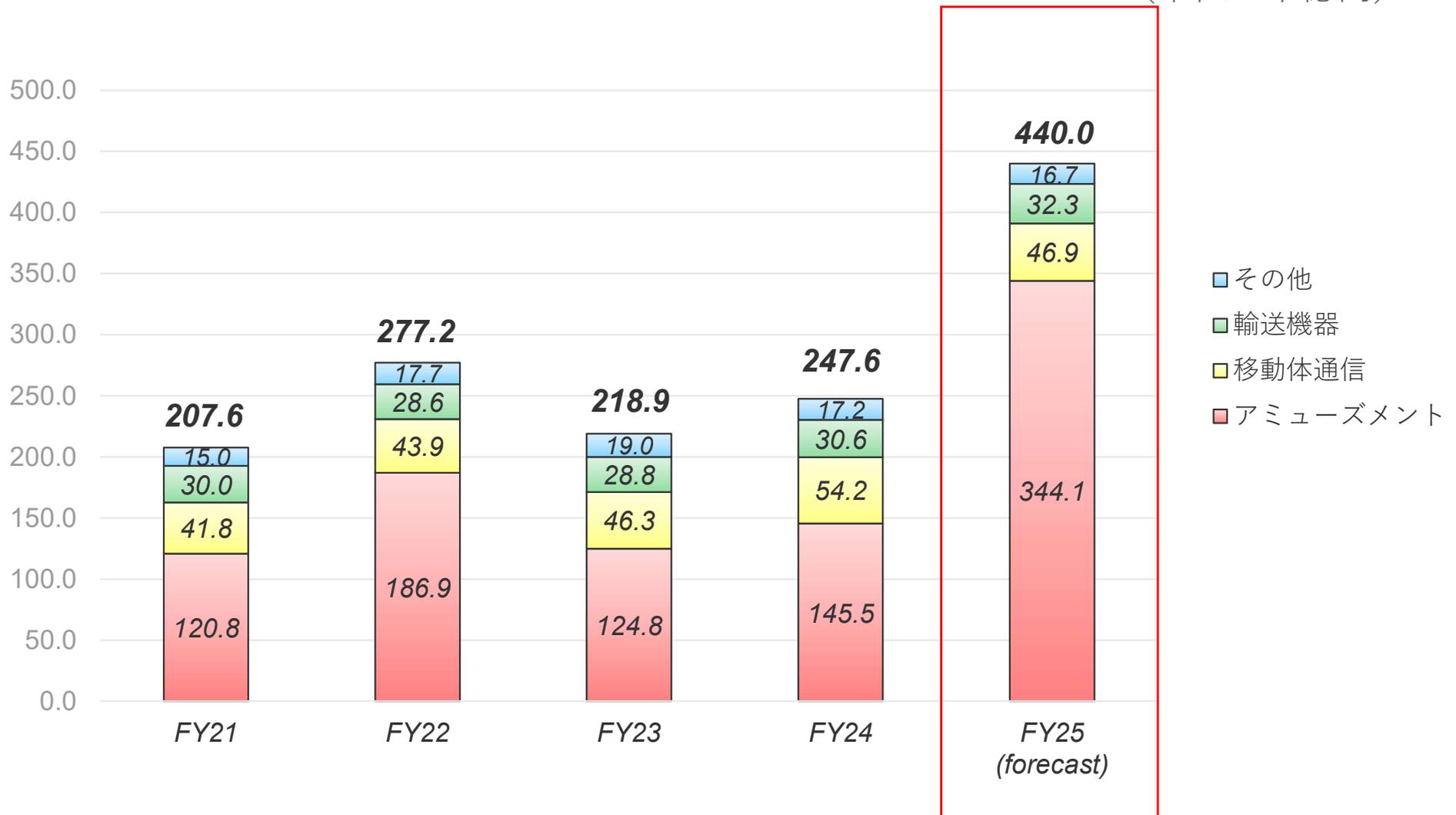
経常利益
180億円

- ・上期で営業外の為替差益が約9億円発生した。
下期は発生せず、通期で約9億円を見込む。

※為替及び米国関税率の前提は2025年11月7日時点のものによります。

2025年度 通期予想：使用機器別売上高

(単位：十億円)



2025年度 通期予想：使用機器別売上高

アミューズメント

- ・ **1,455億円** → **3,441億円**（前期比+136.5%）
- Q3までは上期の好調が継続。Q4は生産調整局面を想定。
*Q4はクリスマス商戦の結果次第となるが、シーズンリティを前提として想定している。

移動体通信

- ・ **542億円** → **469億円**（前年同期比▲13.5%）
- 主要顧客向けの販売が前年度Q1で非常に好調であったことが影響。

輸送機器

- ・ **306億円** → **323億円**（前年同期比+5.5%）
- 主に機構部品の伸長を見込む。

その他

- ・ **172億円** → **167億円**（前年同期比▲3.1%）
- 主に医療、健康関連向け及びAV機器関連向けの減少を見込む。

業績予想の前提

(単位:百万円)

	22年度	23年度	24年度	25年度 (期初予想)			25年度 (見込)		
				上期	下期	通期	上期実績	下期	通期
設備投資額	2,038	2,833	6,734	2,900	4,700	7,600	2,802	6,598	<u>9,400</u>
減価償却費	3,385	3,150	3,541	2,200	2,900	5,100	2,181	2,919	5,100
研究開発費	2,020	1,977	2,073	1,250	1,250	2,500	870	1,130	<u>2,000</u>

業績予想の前提

設備投資額

- ・ 下期の主な設備投資見込み
→ アミューズメント向け関連設備：約26億円、ベトナム8号棟：約15億円、
移動体通信向け設備：約5億円、インド工場設備：約5億円、
その他：約15億円

減価償却費

- ・ 期初予想から変更なし。

研究開発費

- ・ 実績を考慮し20億円に変更しています。



第1章

1部 2025年度 上期 業績概要

2部 2025年度 業績予想

3部 トピックス

第2章

1部 代表取締役社長
古橋健士からのメッセージ

2部 主なQ&A

■ 中間期 売上高レコード更新

(単位:億円)

売上高	中間期	通期
2008年度 (レコード)	2,329	4,537
2025年度	2,454	(予測) 4,400

*当中間期の連結売上高は2008年度のレコードを更新しました。

株主還元 現状と目標

1株当たり
期末配当額

【配当方針】

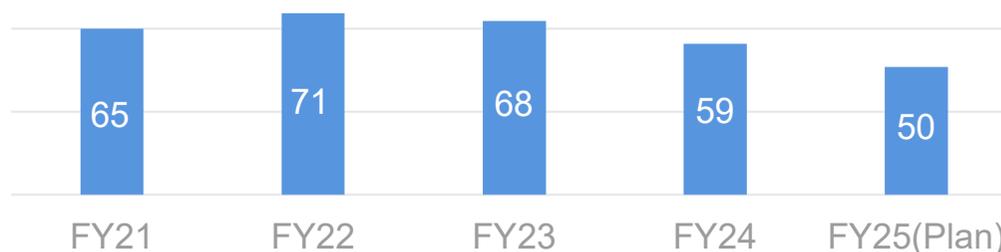
安定配当

- ・配当性向30%を設定

2025年度 **50円/年***1
(24年度 59円/年)

単位：円

■配当金



自己株取得

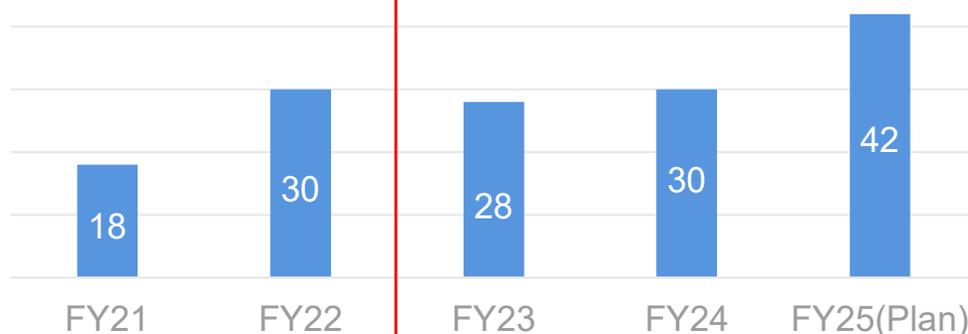
【自己株式取得方針】

積極実施

- ・FY25までの3年間で累計100億以上の取得、消却を目標としている。

→今期中に達成見込み*2

単位：億円



*1 期末配当予想につきましては、配当性向30%として通期実績をもとに算定するため、現時点では業績予想の修正を考慮せず、期初開示予想を据え置きとしております。

*2 11月7日開示の「自己株式の取得に係る事項の決定及び自己株式の消却に係る事項の決定に関するお知らせ」をご参照ください。

ベトナム 新工場

建設目的

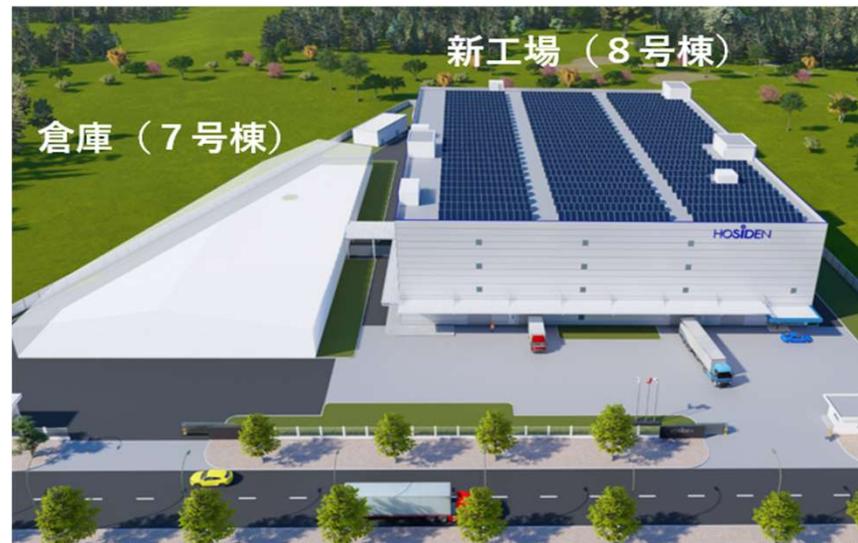
- ・生産能力の増強（過去には6か所あった中国工場が現在は3か所）
 - * 更に東莞橋頭中星電気有限公司は2025年度末での営業終了を決定済
- ・米国での関税対策も含め中国以外の国・地域での拡張

新工場について

- ・ホシデンベトナム（バクニン省）の8号棟を建設
- ・床面積 24,000m²（1フロアー6,000m²×4フロアー、屋上には太陽光パネルを設置）
- ・2024年度着工、2025年度完成予定



ホシデンベトナム（バクニン省）
（赤枠が8号棟建設地）



8号棟イメージ図

インド 新工場

建設目的

- ・インド国内での生産及び、インド国内外への販売拡大

新工場について

- ・当初は空調機用リモコン及び、車載用マイクの生産販売を行う予定。
- ・事務棟3階建、生産棟2階建
- ・2025年度着工、2026年度稼働予定



工場イメージ図

太陽光パネル設置の様子

稼働中



ホシデン和歌山(株)



ホシデン九州(株)



ホシデンベソン 第一期 (英国)

稼働中



ホシデン東京事業所



ホシデン本社5号館

2025年度 稼働予定



ホシデンベトナム (バクニン省)
(新棟イメージ図)

カーボンニュートラルに関する取り組み

CO2削減目標

【SBT水準のCO2排出量削減目標】

- ・ 中間目標：2030年度末までに2023年度基準で総排出量42%削減(Scope1,2)
2030年度末までに2023年度基準で総排出量25%削減(Scope3)

拠点	年間CO2	CO2削減率	稼働時期
ホシデン和歌山(株)	124トン	25.2%	2022年10月
ホシデン九州(株)	187トン	17.4%	2023年2月
ホシデンベソン	15トン	20.2%	2023年4月(第一期) 2023年9月(第二期)
ホシデン東京事業所	35トン	29.0%	2024年9月
ホシデン本社5号館	100トン	10.0%	2024年12月
ホシデンベトナム	700トン	5.9%	2025年度中(予定)

※上記とは別に2014年4月よりホシデン本社3号館屋上で太陽光パネル稼働

事務所・生産棟照明のLED化、再生可能エネルギーを使用した電力の購入等にも取組中



- CDP（Carbon Disclosure Project）スコア
- CDPとは2000年にイギリスで発足した国際NGO（非政府組織）
- 機関投資家だけでなく個人投資家が投資先企業を選定する基準の一つ

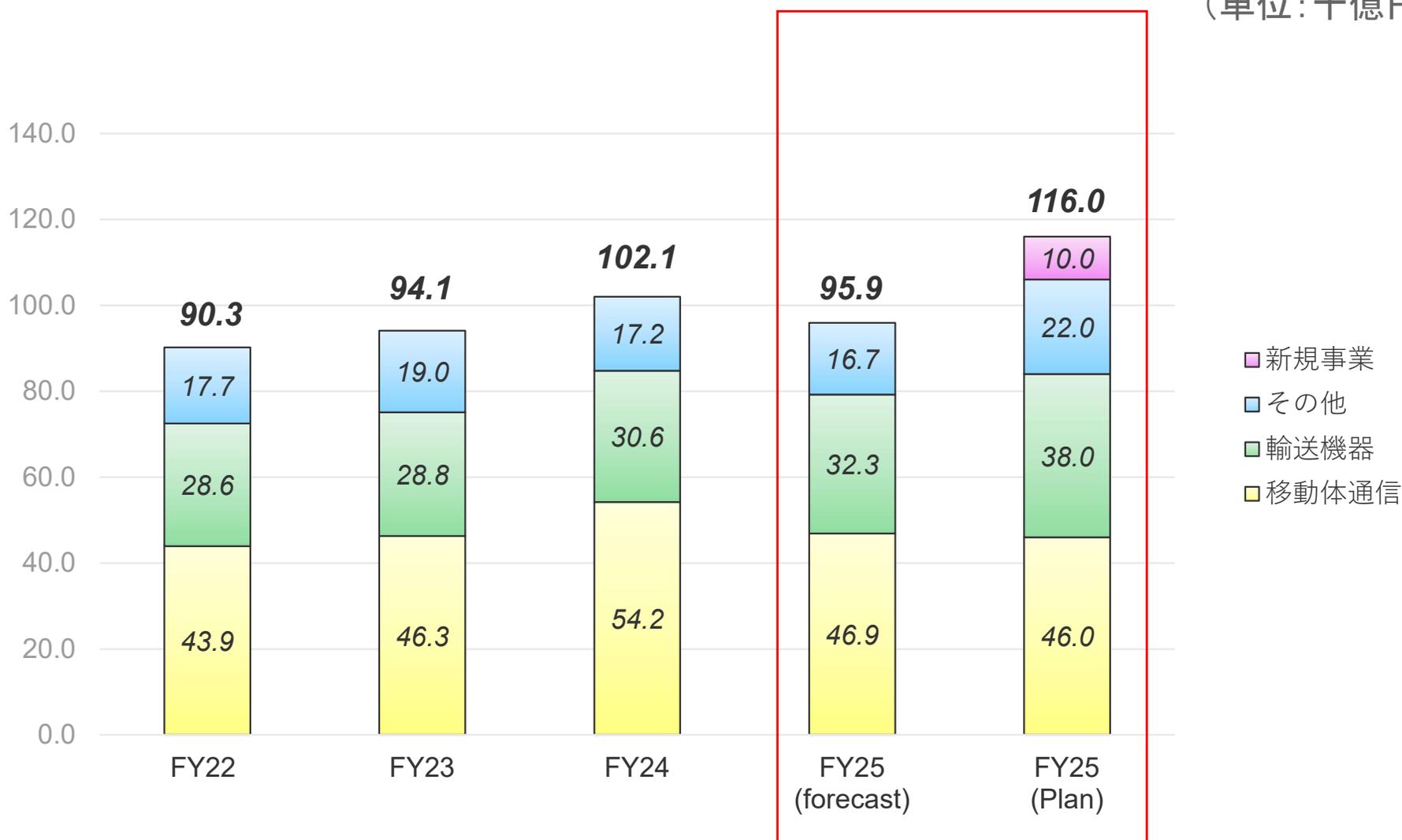
ホシデンのCDPにおける評価の推移

年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
CDP評価 (気候変動)	D ⁻	D ⁻	D ⁻	D	D ⁻	D ⁻	D ⁻	D	C	B	B

更なるランクアップを目指します。

中期経営計画の進捗状況

(単位:十億円)



中期経営計画の進捗状況

・2025年度を最終年度とした3か年中期計画の進捗状況につきましては、現在の2025年度使用機器別売上高予想と比較すると、移動体通信向けは当初計画を達成すると見込んでいますが、輸送機器向け及びその他向けは当初計画の達成が厳しいと見込んでいます。

Mobile Communication 事業

- ・移動体通信向けは主要顧客のハイエンドモデルを中心に販売が好調であり、需要が伸びました。

Automotive 事業

- ・輸送機器向けは、多くの顧客において販売が完全には回復しておらず、当初計画を達成することが難しいと見込んでいます。但し、2025年度下期の中で量産販売開始が見込まれるボリュームのある取引により、2026年度には1年遅れで目標金額に近づくと見込んでおります。

Others

- ・その他向けは、医療、健康関連向け、IoE関連及び無線モジュール関連の販売が当初計画ほどには伸びない予想であるため、当初計画を達成するのが難しいと見込んでおります。

New Business

- ・なお、新規事業については取組みを行っているものの、現時点で実現の見込みがあるものはございません。



第1章

1部 2025年度 上期 業績概要

2部 2025年度 業績予想

3部 トピックス

第2章

1部 代表取締役社長
古橋健士からのメッセージ

2部 主なQ&A

1.2025年上期と今後の見通し

1-1 電子部品業界について

・電子部品メーカー各社の決算開示を見ると、大手では売上が伸びている会社もあったが、中小の部品メーカーは、業績予想の未達成や前年割れの会社もあり、総じて厳しいと言える。一部、AIサーバー向けの製品を販売している会社は伸びていた。

1-2 2025年度のホシデンの業績について

1) 上期の実績について

- ・ アミューズメント向けは、新製品が伸び、当該売上は前期比3.2倍となった。これが当社全体の売上を牽引した。生産は主にベトナム工場で行っており、お客様の需要に応えてきた結果である。
- ・ 移動体通信は、前期の第1四半期にAIが搭載されたスマートフォンが販売され、よく売れた。今年度は昨年度と比較すると落ちている。現在の移動体通信市場ではAIが搭載されていない端末はなく、折り畳み型や薄型等非常に多くのモデルが販売されており、市場が広がることを期待している。
- ・ 輸送機器は上期で立ち上がる予定だった新製品が半年ほど遅れており、下期にある程度成長すると見ている。その他向けでは、医療・健康機器関連の製品が落ちた。売上が増加した製品もあるが、結果として前年同期比で6.5%減少した。

2)通期の予想について

・通期は4,400億円の売上予想を立てている。アミューズメントはQ3までは好調だと予測しているが、Q4は過去の経験則から、シーズンリティで販売が落ちると想定している。ブラックフライデーやクリスマスセールの販売が高い水準で推移した場合は、Q4の売上が増加する可能性もある。ただし、ベトナムでは2月に1週間の長期休暇があること、アミューズメントの生産ラインの8号棟への引越等を考慮すると、生産は減少する可能性があるとしている。

・通期の営業利益は160億円と予想を立てているが、この売上高からすると物足りないと考えている。Q1は、前期末の為替レートから急激に円高が進んだことによる為替のマイナスの影響が大きかった。

上期では約9億円の為替差益を計上したが、下期以降に為替がどのように推移するかは分からない。下期の想定レートは9月末の為替レートに近い150円を前提としている。

2 その他

1) 海外の新工場について

・ 現在ベトナムで建設中の8号棟は1フロア6,000㎡の4階建てで、当社工場の建物の中でも非常に広いスペースを持つ工場となる。以前のベトナム政府は協力的であったが、現在は過去になかったルールを課され、各種認可が遅れている。これはホシデンだけではなく他社も同様である。

2) 設備投資、減価償却、研究開発について

・ 2024年度の設備投資はアミューズメントの新製品への投資で増加した。2025年度も増加し、94億円となる予定。この中には金型投資も含まれ、金型は償却年数が1年であることから、減価償却費が51億円にまで増加する見込み。

・ これまで10億円単位で自動化投資を行いワーカーの削減を進めてきた。ただ、まだ削減の余地があるため、更なる自動化を進める。

・ 研究開発テーマとして、社会インフラ向けに、様々な情報をセンサーで検出し、無線で情報を取得する技術に注力している。さらに開発のスピードを上げ、幅広いセンシング機器を取り扱えるようにしたい。

3) 配当について

- ・ 2025年度は上期25円、下期25円で年間50円の予測を期初に立てているが、当社では、当期利益の30%を配当することになっている。期末に利益が確定すれば、これに基づいて配当する。

4) カーボンニュートラルについて

- ・ 当社の国内拠点は全て再生可能エネルギーを使用するようになった。
- ・ 海外拠点では、ベトナム工場の8号棟にも太陽光パネルを設置する予定。ただ、8号棟が稼働すると消費電力が増加するため、太陽光パネルの発電量のみでは追いつかなくなる見込みである。
- ・ カーボンニュートラルは企業として責任なので、対応したい。

5) 米国関税について

- ・ 今年5月の決算発表時に米国関税によって30億円のマイナスの影響があると開示した。8月のQ1決算開示時にこれを10億円で修正し、利益の上方修正をした。通期で見ても10億円は発生すると見ている。



Q & A

第1章

- 1部 2025年度 上期 業績概要
- 2部 2025年度 業績予想
- 3部 トピックス

第2章

- 1部 代表取締役社長
古橋健士からのメッセージ
- 2部 主なQ&A

■ 主なQ&A

- Q-1** 下期のアミューズメントの見立てについて。Q3は現在の状況を織り込んでいるということだが、Q4で新工場が立ち上がるなか、売上が大きく減少する見込みとなっている。保守的に見ているのか。それとも何か特定のリスクがあるのか。
- A-1** 8号棟の建物はまもなく完成するが、1～3月で生産に大きく寄与することはない。今年度は、現在の建物で生産をしていく必要がある。Q4の生産については、現在想定される状況でボトムラインを置いたのが今の予想となっている。
- Q-2** 来期について、売上・生産の増加が予想されること、またこれまで以上に設備投資を増やしていることから、資金的にどのように対応をしていくのか。
- A-2** 基本的には、2,3割の売上の増加であれば、現在の自己資金でもって対応可能とみている。グループ内の資金も活用して対応する。

- Q-3** 中期経営計画（説明会資料のP26）の新規事業100億円について、今の取組と今後の方針について教えてほしい。
- A-3** この新規事業については、M&Aを含めて事業を創出することを計画した100億円です。M&Aについては常に門戸を開いて事業機会を見出し、成長に繋げたい。
- Q-4** アミューズメント以外の分野での今後の成長について伺いたい。輸送機器向けは増えてきたが、それ以外の分野でどのような成長の種があるか教えてほしい。
- A-4** 社会インフラ向けのセンサー部品は現在世の中にはほとんどなく、かなりのマーケットがある。このセグメントを立ち上げ、一つのビジネスで100億円の売上にはならなくとも、複数のセンサーのラインナップを持つことで売上を伸ばしていきたい。

Q-5 センサーのビジネスで、他社と差別化された形で製品化できるケースはあるのか。

A-5 このセグメントの製品は、当社のこれまでの顧客リストに全くなかった顧客に売ることになる。エレクトロニクスではない世界に製品を供給する。安全安心を販売していくことになり、付加価値も増えていくと考える。

Q-6 マイクを自動車用途以外の、他用途への活用はできないか。

A-6 直近で一つの柱になっているのはヘッドフォン用。今のヘッドフォンにはアクティブノイズコントロール（ANC）マイクがついている。ANCのレベルの高いものでは、一つのヘッドフォンに10個のマイクが入る。現在もヘッドフォン用途でのビジネスは行っており、さらに大きな柱とするために伸ばしていきたい。

※本資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、現在入手可能な情報による当社の判断に基づく将来の予測であり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。さまざまな潜在的リスクや不確定要素を含んでおり、実際の業績はさまざまな重要な要素により、記載された見通しと大きく異なる可能性もあり、これらの見通しに過度に依存されないようお願いいたします。



THANK YOU !

<https://www.hosiden.com/>

